

令和8年（2026年）1月19日外部評価実施
緑地地域包括支援センター（中東部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】 2025年12月1日現在

圏域人口：49,679人
高齢者人口：11,995人
高齢化率：24.15%

【圏域の地域特性】

緑地圏域は、吹田市に隣接した南北へ長い地域となっており、豊中市の中東部に位置しています。高齢者人口における後期高齢者の割合は62%、高齢世帯比率は28%、独居世帯比率は18%となり、超高齢化が顕著となっています。

北部は、服部緑地公園を中心として坂道が多い地形上の課題があり、自立歩行に不安を抱えると閉じこもり傾向になる方が増加し、要介護者の潜在化リスクが高く、SOSを表出できない生活課題が生じています。

南部は、神崎刀根山線沿いに生活関連企業が整備され、生活中心エリアとなっており、地域コミュニティも強いですが、中心エリアを境に地域交流が乏しい傾向も見受けられます。また高川・天竺川に囲まれた平地であるため災害時には、甚大な被害を及ぼす防災上の課題があります。

全校区で、重層的支援が必要な複合課題ケースの相談が増加しているためこれまで以上に地域のネットワーク構築の強化につなげていきたいと考えています。

【医療・介護支援】

圏域内の北部には地域密着型の千里山病院があり、南部には長期療養を中心とした坂本病院がありますが、重症救急を中心とする急性期総合病院は存在しないため、状況に応じて他圏域や他市の総合病院と連携を図っています。

各校区には、クリニック・歯科・薬局は充足しており、身近な医療の提供が行えています。

介護事業所全般とのネットワークのもと、いずれも地域包括支援センターの活動に協力的で地域貢献活動に熱心に取り組まれています。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

豊中市地域包括支援センター運営基本方針をもとに、総合相談支援力向上をめざし、複合かつ困難課題ケースに対応できるシステムづくりを整備していきます。

毎日の朝礼ミーティングでは、本センターと分室とのケースの情報共有を図り、地域で得た情報を全職員にフィードバックし、職員のスキルアップ・多職種連携の強化にて地域包括ケアシステムの構築を推進します。

【特に力を入れて活動している点】

・地区担当が担当地域を中心に、民生委員定例会・なんでも相談・敬老の集い・医療機関・商業施設・金融機関・介護事業所等へ計画的に広報やPR活動を継続し、地域のニーズを把握し、課題を抽出しながら地域診断を実践し、その課題に応じたアプローチを展開し、有機的なネットワークづくりを促進しています。

・困難ケースを全職員で振り返り、スーパービジョンを実施することで専門性の向上を図り、人材育成及び組織全体のチーム力の強化を推進しています。

【活動の中での課題やその解決策】

複数の自主グループに対する後方支援がうまく機能しておらず、緑地地域包括支援センター主体となって運営しつつある現状が課題です。

解決策として、自主グループメンバーと会議を開催し、メンバーの思いや意見を確認しながら、目的や活動内容について振り返り、意識の統一を図り、自主グループが、主体的に取り組むことができるように支援していきます。

総評

【特徴的な取組内容】

① 地域の社会資源と協働する取組みを推進しています。地域の方々が参加することによって、認知度や取組みの拡充につなげています。また、地域活動の主体が地域包括支援センターから、地域の専門職や地域住民に移行しつつあります。

② 介護支援専門員への取組みでは、参加者の意見をもとに、必要とされている優先度の高い研修内容となるよう留意されています。実務上での課題や悩みに即した内容を取り上げることによって、介護支援専門員のモチベーション向上にもつながっています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

① ハラスメント等も含めた、権利擁護全般への新たな取組みが始まっており、それらをふまえた内容と対象の拡充に期待します。